

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192800207		
法人名	社会福祉法人 杏樹会		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	埼玉県入間市新光115-1		
自己評価作成日	令和3年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 埼玉県介護支援専門員協会		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階		
訪問調査日	令和3年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほほえみでは、昨年3月のオープン時より、入居者様の今食べたいものを取り入れた献立と一緒に考え、一緒にスーパーへ食材の買い出しに行き、皆様と調理することを一番の特色にしてみました。新型コロナウイルスの感染予防のため、今買いい物は職員だけで行っていますが、献立作成と調理は入居者様と行っています。久しぶりに包丁を持ったと言う入居者様が生き生きとされている姿にご家族様からも喜びの声をいただいています。食材の買い出しから調理までを自分達で行っているグループホームは、市内で唯一と聞いています。お米やお茶なども定期購入する物は近所のお店に発注し、地元となじみの関係作りをしています。他には、ほほえみでは自然に各自の役割が生まれてきていて、男性入居者様も食器洗いをされたり、洗濯物を干したり取り込んだりを積極的にこなされています。お互いに助け合う姿もよく見られています。医療面では飯能老年病センターとあんず歯科と提携し、日々連絡を密にし、受診体制は万全です。常勤職員は全て介護福祉士資格を持ち、8年以上の経験者です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年3月にオープンし1年、新型コロナウイルスの感染症拡大で、当初思い描いていたことができにくい状況が続いている。理念である「主役は利用者、職員は黒子」を行動の規範とし、利用者中心の生活の継続に職員は日々努力している。食事は、献立を全員で考え、好きな物食べたい物を食べるという、食の楽しみを共有している。母体法人は地域に根付いた法人であり、当事業所も1年目であるが、地域とのつながりも構築できており、地域から受け入れられている。職員は経験者が多く、グループホームでの介護に思いや理想を持ち日々のケアを行っている。コロナ禍で制限も多いが、できることを工夫して行ない、利用者中心の生活の継続を期待する

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員には事あるごとに法人とほぼえみの理念を伝え、判断の基準はそこにあることを浸透させています。主役は誰か、職員はあくまで黒子としての行動を実践しています。	開所時に職員で考えた「主役は利用者、職員は黒子である」という理念を常に頭におき実践し、迷った時にはそこに立ち戻り考えるようにしている	開所時の思いが薄らぐことのないよう、職員全員が理念を常に行動の規範とできるよう、理念の掲示等意識付けできるような工夫を今後していただきたい
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自治会には加入していますが、今年度はコロナウイルスのため自治会活動はありませんでした。地区の運動会やゴミ拾いなどに参加予定でした。	オープン前から法人内の包括支援センターを通し、地域で説明会を行い、その後も地域とのつながりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が地域包括支援センターを2拠点市から委託されているので、認知症の理解や支援の方法の発信は協力して行っていく予定でしたが、今年度はコロナウイルスのため活動はありませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の開催を予定していましたが、コロナウイルスのため開催は見送ることになり、地区の自治会区長と民生委員、地域包括支援センターと市役所へ活動報告の配布をしました。	コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議を開催できていない。	コロナウイルス感染症の収束まではまだしばらくかかると思われ、コロナ禍でどう工夫して行っていくかを検討していくことを期待する
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	オープン初年度なので、わからないことも多く、迷ったり困ったことは、すぐに市の介護保険課へ電話させてもらいました。同時にほぼえみの現状報告もでき、協力関係を築けるようにしています。	市役所への相談や報告も都度行えており、より良い関係ができています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の行動の一つひとつが、身体拘束にあたらぬか、各自かつお互いに振り返りながら業務にあたっています。玄関の施錠をしていないと離脱も起きていますが、職員で声を掛け合い事故を防いでいます。	利用者一人一人の行動パターンを把握し、施錠しない努力をしている。職員各自が自身の行動を振り返り、どういうことが身体拘束にあたるのかを考えるようにしている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	入職前に全員が虐待防止の研修を受け、どういったことが虐待にあたるのかを業務の中でも話題にし、職員同士でチェックし合いながら業務にあたっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は学ぶ機会を得たが、今年度は各職員に学ぶ機会を持ってもらってはいないので、次年度への課題とします。個人的に勉強している職員は多いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間をとり、内容を丁寧に読み合わせて、疑問点のないよう、納得していただいています。改定の際も全員のご家族に十分ご理解いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスのため運営推進会議の開催ができず、外部者へ表せる機会は持てませんでした。コロナ収束後は機会を作りますが、現在は管理者や各職員がご家族個々に意見を頂戴し、反映していけるように努めています。	コロナウイルス感染予防のため、家族の来訪の機会も限られているが、日常のエピソードをまめに伝え発信している。家族からもメールや電話で気軽に連絡がもらえるよう関係作りしている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やホーム会議を毎月開催することができていないので、次年度への課題であり、必ず実現させていきたい項目です。管理者やユニットリーダーが各職員の意見をこちらから聞きに行き、相談も持ち掛け、意見交換には努めています。	コロナ禍で急な休暇が発生することもありシフト作りに苦労し、ユニット会議、ホーム会議は開催できていない。会議を今後勤務表に組み入れるようにしていくとのこと。	忙しい業務の中であり、開催時間や方法を工夫し、まずは予定を組むことから始めていただきたい
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が各自で1年間の自分の業務を自己評価し、その内容を踏まえた上で、努力や実績等を十分に把握・評価し、次年度へのモチベーションを高められるような働きかけをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナウイルスのため外部研修の機会を持たず、内部研修も十分には行えませんでした。次年度はリモートを使った、各自のキャリアに合った研修を受けていくことが決まっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスのため行えませんでした。次年度はリモートを使って機会を設けていきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご自宅を訪問させていただき、現在の暮らしの中での困りごと、ほほえみへの不安点・疑問点を十分に話し合っています。ご本人が安心・納得されてから契約の話へと移行しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のほほえみに対する不安や疑問に十分耳を傾け、困っていること・要望も丁寧に聞くようにしています。全てにご納得いただけるまで話します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの在り方を説明し、ご本人、ご家族の今のニーズに合っているのかをよく検討していただいて入居を決めてもらっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員がお互いを「あなたがいてくれて良かった」と思える施設であることをほほえみの指針にしています。職員は皆が家族と言う意識を常に持って、業務にあたっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本来なら共に暮らしていきたいご家族の思いに寄り添い、ご家族に代わってご本人を支援していることを忘れずに業務にあたっています。ご本人同様、ご家族とも家族の意識でいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの感染予防のため面会の制限をさせていただき期間もあり、馴染みの関係を途切れないようにできない現状もありますが、電話やリモート面会などで、馴染みの関係の継続を支援しています。	面会制限がある中、ウッドデッキを使用したり玄関での面会、リモート面会等、工夫し関係継続の支援を行っている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の家事を共に行っていく中で生まれている支え合いを大事にし、孤立する方がいないよう声掛けしています。食事の席なども会話がはずむよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方の状況を病院やご家族に随時確認していたり、サービス終了時は何かあればいつでもご連絡くださいと必ずお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にほほえみでしたいことを確認させていただき、入居後はそれがちゃんとできているかの検証と、新たな意向の聞き取りも常に行っています。	入居前には必ず自宅を訪問し、どのような環境でどのような生活をされていたか確認し、その人らしさや思いの把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	始めにご自宅に伺った時に、生い立ちから現在までのお話をご本人、ご家族から丁寧にお聞きし、その時々のお気持ちに思いを馳せ、フェイスシートに記入しています。これまで利用したサービスと利用時の状況も把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変わる入居者一人ひとりの状況を細かに記録に残し、申し送りし、職員間でも現状把握を共有するよう常に話し合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族と話し合い、ご希望やニーズに沿った介護計画を作成しています。	ユニットごとに、ケアマネ、計画作成責任者を中心にニーズや希望を把握し、ケアプランを作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かいことでも記録に残すようにし、入居者の会話もそのまま記録しています。職員からのこうした方が良いのではという意見は、管理者・リーダーとも話し合い、まずやってみようというスタンスでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスの感染予防のため、やりたくてもできないサービスもありますが、できる範囲で柔軟に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れもできない状況ですが、自治会活動には力を入れていきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元で信頼を得ている病院にかかりつけ医を依頼し、ご家族の安心を得ています。医師に定期的に往診に来ていただき、何かあれば電話で相談できる関係性を築いています。	ご本人、ご家族の希望を確認し、基本的には連携病院への変更を依頼している。訪問診療による定期的な健康管理と急変時は入院も可能なことから家族の安心となっている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携を密にし、情報の共有に努めています。入居者の安心、安全な暮らしを共に支えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は適宜、入居者の様子を電話で確認し、退院の時期や退院後のほほえみでの暮らしにスムーズに移行できるよう、情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合の対応を説明させていただき、入居後はその可能性が見られ始めた段階でご家族との話し合いの場を設けています。法人内の特養や地域資源も活用しています。	現時点ではホームでの看取りは行なわない方針となっており、重度化した場合には、法人内施設等を活用している。入居前に家族に重度化した場合の方針について説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で救命救急の講習会を行わずにいます。次年度への課題です。が、職員全員が経験者なので、入居者の急変時や事故対応は経験値からできています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行い、災害を身近なものとして捉えています。自治会の区長さん等へ有事の際の協力は依頼しています。	消防訓練を利用者全員参加し2回行った。ホームは平屋であり、空き地、駐車場がすぐ近くにあり避難しやすい環境である。水害の危険性もない地域である。1週間分食料の備蓄を行っている。	コロナ収束後には、自治会等地域の人も参加していただき、実践的な訓練を行ない、地域との協力体制構築を期待する

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには細心の注意を払い、聞き苦しい場合はその場で改めてもらっています。職員同士でも注意し合えるような雰囲気作りを心掛けています。	スピーチロックや排泄時の声かけ等、気になる言葉かけがあった場合には、その場で注意しあっている	注意し合ったことを他の職員とも共有し、事業所として積み重ねができるよう、カンファレンスや会議等の場を持ち記録に残していくことを期待する
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「小さなことでも決定権は入居者に在り」を常に肝に銘じ、職員は提案はしても決定はしないで話しています。また、自己決定できるような働きかけもしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きる時間、寝る時間、入浴時間等、決まりはなく、入居者様のペースで生活していただいています。その日の気分も大事にし、過ごし方も入居者様に決めていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の買い物にも行きたいところですが、コロナ禍で行けずにいます。新聞広告で欲しい洋服を見つけられ、職員が代わりに買ってきたりしています。お持ちの洋服のコーディネートや季節に応じた衣類のアドバイスはさせていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから、お一人ずつ食べたいものをお聞きし、献立に取り入れ、食べる楽しみの維持継続を図っています。準備や片付けまで、入居者様のフォローを職員がしています。	献立を利用者とスタッフが一緒に考え決めている。買物は現在はスタッフのみで行っているが、調理、配膳、片付け等、全員ができることを何かしら参加し食事の楽しさを共有している	栄養士よりアドバイスを受けたり、検査簿を作成し食事内容の評価を行なっていくことも今後必要と思われる
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人ずつの食べる量を職員皆で共有し、盛り付け事に適量にし、食べ残し感のないように配慮しています。水分量が少ない方には声掛けし、脱水にならないように気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	地元の歯科医に週に一度往診に来ていただき、口腔衛生の維持をお願いしています。食後の歯磨きの声掛けと、その様子(磨き残しはないか等)に気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほほえみ入居前は紙パンツだった方が布パンツになったり、排泄パターンに沿ったお声掛けで失敗を少なくする働きかけをしています。	一人一人の排泄パターンの把握に努め、自尊心を傷つけないような声かけをし排泄の自立を促進できるようにしてる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の足りない方へのお声掛けや、散歩等の運動へのお誘い、乳製品を多く摂るなど、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日も時間も入居者様のご希望に沿って決まります。寝る前に入りたい方への対応もできています。	入浴日、時間は利用者の希望に添い対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お疲れのご様子が見えたら、居室での休息をお勧めしたり、夜間の巡回でドアを開けただけで起きてしまうかたには、センサーを使うなど、安眠への配慮をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容に変更があった場合は申し送りノートで皆に周知し、その副作用や、服薬後の様子観察の重要性も伝えていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援	手芸や縫物など、以前からの趣味の継続ができるよう、材料の提供しています。ユニットで居酒屋を企画したり、お酒など嗜好品の提供もあります。ドライブなども計画し、楽しみごとを作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナウイルスのため外出は制限させていただいています。近所への散歩や近所のびわの木での「びわ狩り」、敷地内の畑作業、などで外出気分を味わっていただいています。	コロナウイルス感染予防のため外出制限があり、遠出はできず、楽しみにしていた食材の買物も行かれない状況である。散歩や畑へは出かけており、地域の人たちが声かけしてくれている	ホームの周りは畑や学校もあり、散歩に適しており、遠出はできなくても、近隣への日常的な外出を続けていただきたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人のお金は事務所で預かっていますが、ご本人の買いたい物をお聞きし購入することで、ご本人がご自分のお金で買ったという感覚を持っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの入居者様もいらして、ご家族や友人との会話を楽しまれています。ご家族から手紙が届いた際には、お返事を書くお手伝いをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保てるよう、入居者様と一緒に掃除をし、見て落ち着かないような物は置かない、気持ちの休まるような飾り付けをするなど、居心地の良い空間作りを心がけています。	皆で過ごすリビングは明かり窓から光が入り明るく、落ち着いた雰囲気となっている。デッキテラスに出て日向ぼっこや外気を吸うことができる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキに椅子を置いたり、フロア内でも皆様と離れた位置に二人用の椅子を置くなど、お一人でも親しい方ともお過ごしいただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がお使いになっていた布団、湯飲み、お茶碗などをお使いいただき、居室に仏壇を置いたり、ご自宅にいた時の安心感をお持ちいただけるようにしています。	ベッド、衣類タンス以外は自宅から持ち込み馴染みの空間を作っている。居室の窓からは桜の木やお茶畑等が見え季節を感じる事ができる	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で冷蔵庫からジュースを取り出し、食器棚からコップを出して飲まれる方がいらしたり、わかりやすい置き場作りを心がけています。		

目標達成計画

作成日：令和3年3月4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	ユニット会議やホーム会議を開く時間をなかなか作れない。管理者は、ユニットリーダーとはこまめに話し合いをし、ユニットの現状の問題点は常に把握しているが、各職員からの聞き取りが不足していると思われる。	定期的に両会議を開催できる体制を作る。各職員からの聞き取りの機会を多設ける。	定期的に開催できるよう、予めシフト作成時にユニット会議やホーム会議を組み込む。管理者の出勤日には各職員と話す時間を作る。	2ヶ月
2	49	新型コロナウイルスの感染予防のため、外出が制限されている。その中でいかに外へ出られるかを検討している。	気分転換や健康維持のために、一日に一度は外へ出る。	洗濯物を干す、取り込む、散歩、植木の水やり等で外へ出る目的を持っていただき、達成のための声掛けと、チェックシートを作りチェックして、なあなあにしない。	2ヶ月
3	36	オープンから1年が経過し、段々と入居者様と職員の関係がくだけた感じが見える。今一度、言葉遣いの見直しをし、いっご家族に聞かれても構わない会話であるよう、職員全員に徹底したい。	いつどんな時でも気持ち良い言葉遣いでほほえみが埋まるようにしたい。	自分の言葉遣いを見直すレポートを書いてもらい、ほほえみの指針と照らし合わせてもらう。今後の自分の目標を立ててもらう。	2ヶ月
4	52	職員個々の感覚の違いもあり、飾り付けに統一感がなく、作品の掲示等もしていきたい。	誰もが気持ちよく居られる空間を作りたい。	職員間でどんなコンセプトにするのか、季節ごとにでも話し合い、統一感のあるフロアや玄関、トイレにしていく。入居者様の写真や作品を掲示できるスペースを作る。	3ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。